



【暗唱聖句】

わたしはよみがえり
りです。いのちです。わたしを信じ
る者は、死んでも生きるのです。

ヨハネ 1 1:25

主イエス・キリストのこの言葉の大
胆さを是非考えて見ましょう。もし

これが真実でないならばイエス・キ
リストはとんでもない嘘つきか、か
わいそうな夢想家か、狂人というこ
とになります。しかし本当ならキリ
ストに対してどのような態度を取る
かはその人の行く末を決定するだけ
の重みを持つことになるのです。

【クリスチャンの社会的責任】

～ 大統領選 takenawa! ～

私たちの教会では米国市民の方と
そうでない方がいらっしやいます
が、地上で生活している限り、税金
をきちんと払うなどの責任をきちん
と果たすよう神は命令されています
(ローマ 13 章他)。今回は政治に関
して、いくつか覚えておくべきこと
を紹介します。「クリスチャン生活
百科」よりの引用です。

● 為政者のために祈る

第一は為政者のために祈ること
です。政治家や官僚、役人の中から主
イエスを信じるクリスチャンが起こ
されるように祈ることはもちろんで
す。しかしそれだけでなく、たとえ
他宗教を信じる為政者であっても為
政者としての役割をきちんと果たす
ことができるよう、その結果、社会
正義や公平、平等、愛や平和、繁栄
に満ちたおだやかな社会が築かれる
ように祈るべきです。

確かに歴史は終末に向けていっそ
う悪に満ち、渾沌とした状況になっ

ていくことでしょう。けれども政治
はそうした腐敗を一時的にであれ食
い止めるために神によって使命を与
えられています。ですから、その使
命が少しでも果たされていくよう
に、クリスチャンは祈らなければな
りません。クリスチャンは決してア
ナーキーな（無政府主義的な）傍観者
ではありません。

● 選挙権の行使

さらに、選挙権を行使することも
クリスチャンにとってたいせつな務
めです。政党の支持は、クリスチャ
ン同士の間でもさまざまでしょう。
明らかに非道徳的な政治組織、一宗
教の擁護を前面に打ち出している政
治団体、あるいは無神論に基づきそ
の立場を鮮明にしている政党等々、
クリスチャンが直接支持するにはふ
さわしくない政党もあることではし
ょう。各政党の思想的背景にまったく
無知であってはなりません。現実
に支持する政党はクリスチャン同士
の間に差があっても当然です。

(次号につづく)

【先週のMESSAGEより】

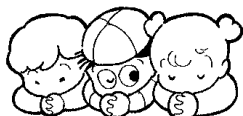
マリヤとマルタ ルカ1.0:3.8~4.2

たった5節しかない話でありながら人間のありのままの姿が見事に描かれている。イエスを喜ばせたいという純粋な動機、客をきちんともてなす必要があるとの持ち前の責任感からマルタはすぐに「奉仕」に取り掛かった。しかし彼女はここで最も大切なステップを一つ抜いてしまった。つまり先ず最初に「私に何を最もお求めですか？」と主イエスに伺いを立てなかったのだ。私たちの生活に当てはめて考えるなら、一日の始めに主の前に静まり、主への従順と献身を明らかにする時を持つというそのステップを抜いたのである。

能力の高い彼女はどんどん自分で仕事量や品質／納期を設定し、彼女のプロジェクトに取り掛かったが予定通り事が運ばなかった。余裕がなくなり緊張が高まり、ついに手伝わない妹、妹に手伝うよう指導しないイエスに怒りと不満をぶちまけてしまう。イエスは優しくマルタを諭すが、その核心は何であったか。「何をするにも先ず、わたしの前に静まり、話しに耳を傾けることを選びなさい」ということであった。

【生活のワンポイント】

祈らないことがいつしか思い煩いをふやしていきます。



【この教会のビジョン(4)】

※福音の力に触れることにより、一人一人の信仰が強められ、主を証ししていくダイナミックな教会を目指す。

福音とは何よりも神様との関係の回復です。神の子とされることから来る安心、弟子として学び続けることの出来る特権、使命を果たすためにしもべとして生きることのできる充実、兵士として戦いに勝利して行く喜び、イエスの友とされる光栄、やがてキリストの花嫁として永遠を受け継ぐ希望、これら全てが神との関係の回復に付随してくるのです。しかし世の誘惑も非常に大きいことを覚えておかなければなりません。

「彼らは使徒たちの教えを堅く守り、交わりをし、パンを裂き、祈りをしていた。」使徒2:42

私たちも最初の信者たちにならない互いに熱心に信仰を励まして行きましょう。そのためにも自分が属することのできる小グループを見つけ、場合によっては新しく始めて、みことばを学び、祈り合う時を持つことをお勧めしたいと思います。希望者は牧師にご相談ください。■

【今週の英語】

(Adrian Rogers "Adrianisms" より)

"There is no one so bad he cannot be saved and no one so good he need not be saved" Adrian Rogers

救われ得ないほどの極悪人はおらず、救いを必要としない程の善人もいない。